

## シリーズ「どんな人でも読みやすい表示」

### (その4) 安全標識を設置するときの工夫

- 安全標識は最も効果的と思われるところに絞って設置しましょう。  
設置場所が多すぎるとかえって効果が薄れます。
- 危険と思われる場所に設置しましょう。
- 遠くからでも見えるように設置しましょう。
- 作業の邪魔にならないように設置しましょう。
- 目の高さにくるように設置しましょう。
- 標識に体が当たってしまいそうな場合は、柔軟性のあるものでカバーしましょう。
  - ★現場用の通販サイトで「安全クッション」と検索してみると、具体的なグッズを知ることができます。
  - ★角に取り付けたり、辺に挟み込んだりするものがあります。
  - ★ニトリルゴム素材、発泡ニトリルゴム、ウレタンフォームなどでできたものが多いです。
  - ★トラ柄(黄色と黒のしま模様)のものもあります。
- 床面に貼る場合は、標識で滑って転倒しないよう、素材や位置に留意しましょう。
- 薄暗いところに設置するときは照明方法に配慮しましょう。
- 暗い場所でもよく見える素材を使うのもおすすめです。
  - ★反射材…車両のヘッドライトや懐中電灯の光などが反射して光って見える。
  - ★蛍光材…普通の物と比べて明るく鮮やかに見える。
  - ★蓄光材…それまでに当たった光のエネルギーを蓄えて、暗闇で自ら発光する。
- 汚れた標識を放置せず、定期的に清掃したり貼り替えたりしましょう。

